

春日部福音自由教会 2020年11月8日 11:00 中央会堂礼拝（同時配信）

聖書 新約聖書 マタイの福音書 14章 22節～33節

説教 「わたしだ 恐れるな」 小野信一牧師

I.序

おはようございます。2020年11月8日の中央会堂の礼拝を共に捧げております。今、聖書が朗読されました。『わたしだ 恐れるな』と題してみ言葉を取りつがせていただきます。

始めにお祈りを捧げましょう。

天にいらっしゃる私たちの父なる神様、あなたの御名をあげます。今日は子ども祝福式を行ない、子どもたちのために祝福を共に祈りました。どうか今、地上に生かされている子どもたちから大人まで、また高齢の方たちまで、ひとりひとりの命をあなたが豊かに祝福し、なお生ける道を導いてくださいますように。今日もみ言葉によってあなたが語りかけてくださり、私たちに力を与え、慰めと励ましを与え、この世に送り出してくださいますように。主イエスキリストの御名によってお祈りします。アーメン。

II.これまでとは違う「今」

昨日はチャリティー茶会が行なわれました。例年と違ってお客様が26名と、十分の一くらいの規模で今回は行なうことになりました。そして、アメリカでは大統領選挙があり、もう決まっていると思っていた大統領が、「投票日から5日過ぎてもまだ決まっていない」と思っていましたけど、今朝「バイデン氏に当選確実と出た」というニュースがありました。最終的にどう落ち着くのかまだ分からないところがあるかもしれませんが…というところです。

今年はいろいろと予定が変更のことがたくさんありました。来週の11月15日は聖書講演会を一応予定の通りに行ないます。庄和も11時になります。そして中央は早矢仕先生（プロフィールが週報にあります）に説教をしていただきます。丘の上は高橋先生です。

今、うちにガリラヤの湖の嵐の絵があります。凧の絵もあります。早矢仕先生の描いた絵です。2月にうちにその絵がやってきたんですけれども、2月の後半から新型コロナウイルスの感染が、日本の私たちの身近にだんだん近づいてきました。そして、今年を振り返ってみると3月から教会の予定にさまざまな変更などが始まりました。3月1日に聖餐式を中止し、合同信徒会を中止しました。8月から聖餐式はだいぶ悩みましたけれども、再開しました。洗礼式も行ないました。ですが、合同信徒会はそれから開いていませんし、各会堂の信徒会も再開していません。

（ところで今日礼拝の始まる前に、同時配信の音声・映像にちょっとトラブルがありましたけれども、今はどうですか？大丈夫？良かったです。皆さんにこの映像と音声が届いていれば感謝なことです。ありがとうございます。）

各会堂信徒会もまだ再開できずに、あれから8ヶ月が経ったという状況に今私たちはあります。当初は「未知のウイルスである」ということが大変強烈に迫ってきたように思います。「気を抜いたら大変なこと

になる。」イタリアなどで教会の建物の中に棺が次々と並べられ、葬りが追いつかなくなるという映像が流れてきて、「そうになったらどうしよう」と思いました。病院では医師や看護師が次々に感染し…という情報が映像で流れてきました。「そうになったらどうしよう。多くの患者が治療や診察や、また別の手術などを受けられなくなったらどうなるのだろう」という恐れや心配がどんどん増していきました。今も、実際にこの私たちの教会の中では新型コロナウイルスの感染者は出てきていませんが、しかし、別の理由や別の病気で入院したり手術をしたりした方が何人もいらっしゃいました。そして「面会ができない」というようなことが実際に起こってきた、ということはこの半年間見てきたのです。そのような状況の中で3月4月、「どうしたらいいだろうか」「何に基づいて判断したらよいのだろうか」と、かなり悩みました。

その時にその2枚の絵を見ていました。嵐に揺れる船の中の弟子たちとイエス様。静かな水面の向こうに手を挙げるイエス様の絵を。そして、4月の復活祭の後からは「同時配信礼拝のみにします」ということで、この場所に集まらないで礼拝をして、それから7月に3会堂の礼拝を再開し、今に至っています。

Ⅲ.今年の秋の聖書講演会

秋の聖書講演会と信徒の学びは予定の日の通りに行ないます。来週と再来週です。ただし人数はこの中央の場合は最大50名。今日もそうですが、それと同じ状態で行ないます。ですので、来週も再来週もオンラインで同時配信を行ないます。中央は「オンライン聖書講演会」となります。庄和と丘の上は11時に行ないますが、「同時配信は中央だけ」というふうになります。「オンライン聖書講演会」になりますので、どうぞ皆さんもご家族やお友達にご紹介ください。お誘いください。一緒に教会に来るのも結構です。そして一緒に家で視聴するのも良いのです。一緒に参加していただければ嬉しいと思います。

これまでになかったお招きのしかたが、もしかしたらできるかもしれません。その人のところに行って一緒に見るということもできるでしょう。祈ってどなたかをお誘いしてみたいと思います。

22日は島先先生を講師として「オンライン聖書講演会」「信徒の学び2020」を行ないます。思えば、5月17日には内田和彦先生をお迎えする予定でした。延期となりました。延期としましたが、「では、今度はいつ」とはまだ決まっていません。内田先生も島先先生も元福音自由の牧師、あるいは宣教師だった先生がたです。春日部の教会にお迎えして説教していただき、信徒の学びをするのを楽しみにしておりました。また、一緒にご飯を食べたり一緒にお話をするのを楽しみにしていました。内田先生は延期となり、島先先生はオンラインでの開催となりました。ですので、一緒にご飯を食べることはできません。それはとても残念なことです。皆さんも、身近な人と一緒にご飯を食べることができない寂しさを味わっているのではないかと思います。島先先生はこの場所には来ることができないんですね。今、関西の滋賀県在住ですけれども、ここには来ないで滋賀県からオンラインで説教していただきます。その映像と音声を今度はこちらを受けてですね、ここでその映像と音声を流して、受信して、中央・丘の上・庄和の3会堂で受信し、また各家庭で受信して共に礼拝をします。その日は、今日週報にも書かせていただきましたが、「神のかたち」について、「神の大きな大きなご計画の中に私たちは創られたのであり、置かれているのであり、期待されているのだ」というテーマについてお話ししていただきます。午前の礼拝聖書講演会には、どなたか身近な方をどうぞお誘いください。普段礼拝に参加していないご家族でも結構です。家でも良いので、一緒に参加して

いただくことができます。今回は印刷物の案内は作っていませんが、ホームページには案内を載せています。二つの絵とともに「オンライン聖書講演会」の案内を掲載いたしました。どうぞお誘いいただければと思います。

IV.揺り動かされている「今」

今ここでも販売をしています『神のご計画』という冊子と、もう一冊『ケープタウン決意表明』という本を今読み返しています。

『神のご計画』の方は、22日の信徒の学びのテキストとして用いられるものになります。神様による創造、そして墮落、そこからの回復、そして未来に起こる完成—創造・墮落・回復、そして完成—に至る大きな流れを示している書物です。今回はその大きな神様のご計画について学び、大きな視野を持つとともに、「その中に私たちひとりひとりが置かれている」「私たちの教会も、ひとつひとつの教会も置かれている」ということを共に覚えたいと思っています。

『ケープタウン決意表明』の方は島先先生が書かれた《まとめ》っていう文章がありまして、それを読んでから改めて読み返しています。そのまとめはとてもよくまとまっていた。可能であればちょっと、許しを得てからですが、皆さんともお分かちできればと思っています。『ケープタウン決意表明』は私たちの信仰の告白の一種ですけども、「愛に軸足を置いた信仰告白である」ということができます。神様への愛、お互いへの愛、そして造られた被造物・世界への愛、さらに福音への愛、神の民への愛、そして宣教への愛というものが告白されています。こういう一文があります。「バラバラの世界を、神は新しい人類へと創り変える」という一文が Part 1 の終わりにありました。「バラバラの世界を神が新しい人類へと創り変えようとしている、今それが起ころうとしている、それがこの2020年なのか！」ということを読み返して新たに思います。

その本の中で、内田先生も『ケープタウン決意表明』の解説を書いておられます。四つの特徴を挙げておられます。それはケープタウン決意表明の信仰告白は「全人格的なものだ」ということ、それから「実際的なものだ」「今日的なものだ」そして「誠実さがそこにある」という四つの特徴を内田先生は挙げておられます。

今、新型コロナで「揺れたなあ」と思います。私たちの心が揺れました。心配や恐れで揺れました。そして世界全体が揺れていたことを思います。信徒会も、チャリティー茶会も、聖書講演会も、そしてこれから来る降誕祭・クリスマスの燭火礼拝も、同じようにはできない。揺り動かされて試されている感じがします。

ガリラヤの湖で弟子たちは揺れる船の上にはいました。水も揺れ、湖も揺れていました。風が来ます。波が来ます。そして思わぬ入り込んでくる水があります。マタイでもマルコでも福音書に2度そのような湖での風・波・嵐のできごとがあったことが出てきます。今日はマタイの福音書14章を朗読していただきましたけれども、これは2度目の嵐、風と波のできごとのことが書いてあります。1度目はその嵐の中でイエス様が眠っていました。その眠っていた姿を思い出します。「先生、私たちは死にそうです。先生、何とも思われないのですか」弟子たちは言いました。私たちも世界が揺れて身の回りが揺れる時に、そしてそれがいつまで続くのかわからない中に今置かれている中で、「主よ。何とも思われないのですか」「いつまで私たちを

このままにしておかれるのですか」と言いたくなる時間が続く、そのように思います。風が来る、波が来る、水が入ってくる、沈みそうになる、でもイエス様は何も言われず何もされず眠っておられる…そんな時間が続く。もしかしたらこの2020年というのは、世界の人たちにとって、私たちにとってそういう時間だったのかもしれない。

しかし、一つのこと気がつきます。船は揺れています《イエス様はその同じ船の上にご座る》ということです。眠っているように見える、眠っているかもしれない、でも、共に揺れる船の上にイエス様はいてくれます。「わたしがいる」と言ってくださる方が、私たちの船が揺れる時、私たちの地球が揺れる時、そこに一緒にいてくださいます。イエス様は揺れるその状況の中に共におられます。「イエス様、何とも思わないのですか」と言いたくなる。でも「イエス様は何とも思わないはずがない。私たちのことを思ってくれている」と信頼するように、信じるように私たちは促されています。

今日のみ言葉では、「信仰の薄い者よ。なぜ疑ったのか」2度目の嵐の時ですね。1度目は「まだ信仰がないのか」。イエス様は繰り返し信じることを励まし、信じるように促しておられます。そして、嵐のあと、やがて凧の 때가 きます。水が静かになる。風も、波も、嵐も止みます。降る雨は止みます。「ただ待つ」ということが必要な時もあります。聖書の中で言えば、ヨナという人も、またパウロも、揺れる船の中で過ごしたことがありました。「もう沈んでしまおう、死んでしまおうんじゃないか」と思うような波と嵐を経験しました。ヨナは海に投げ込まれたんですよ。その時に波は鎮まりました。私たちも揺れることがあります。揺れている間は収まるまで待ってなければなりません。「いつこの揺れは止まるのか？」それはその時になったら分かります。逆に言えば、その時にならなければいつ揺れが止まるのかわからないのです。見えない要素があまりにも多い、先が見えない。今年2020年は、世界中の人たちが「先が見えない」ということを共有した2020年であったように思います。「これからこうなっていくだろう」ということが言えない。自分にも分からないし、隣の人にも分からないし、相手の人にも分からないし、お互いにも分からない。「来年の今頃はこうなっているだろう」「3か月後はこうなっているだろう」と誰も言えないような状況にある。「先のことはわかりませんよね」「先のことはわからないので…」と言うと妙に誰でも「そうですね、わかりませんよね」ってなんだか納得して共感してしまうような、それは寂しいことではあるんですけども、「ああ、私たちは同じ波の中に投げ込まれているんだな」「私たち、同じなんだな」ってよく知ってる人でも、初めて会った人でも、他の国の人でも「先のことはわかりませんよね」っていうところで共感ができる。それが今2020年なのかなというふうに思います。

先が見えない中でイエス様が言われる言葉がよみがえってきます。「あなたは見たから信じたのか？」と問われます。そして「見ずに信じる者となれ」と促される2020年であるように思います。私たちは先が見えるから神を信じ、イエス様を信じるのではなくて、見えない今、信じ、信頼するのです。

V.何を見ているのか？

さて弟子たちは何を見ていたでしょう。ペテロは、この湖の上の今日のこのできごとの中で何を見ていたでしょうか。夜明けが近づいた頃、イエス様が湖の上を歩いて弟子たちのところに来られました。弟子たちはそれを見たんです。イエス様が水の上を歩いて、なんと不思議なことに！水の上を歩いて近づいてくるの

が見えたのです。見たのです。でも、イエス様だってことはわかりませんでした。何かが近づいてくる、誰かが近づいてくる。「幽霊だ」と思って怯え、「恐ろしさのあまり叫んだ」と書いてあります。彼らはまず何を見たか。水の上を歩く不思議な力を持つお方を見たのです。でも、見ているのに、はっきりイエス様だとわからないので怯えている、そういう状況でした。そして、そのあと、イエス様が言われます。「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない」。するとペテロが答えます。「主よ、あなたなのですか。あなたなのですね。あなたなのでしたら、私に命じてください。水の上を歩けと命じてください。水の上を歩いてあなたの所に行かせてください。私にお命じください。」ペテロはこんな不思議なことを言いました。ペテロは時々不思議なことを言いますね。でも、イエス様はそれをちゃんと受け止めてくださって、こう言われましたー「来なさい」。水の上にいるイエス様が、船の中にいるペテロに向かって「来なさい」と言われたのです。そこでペテロは船から出て水の上を歩いて、イエスの方に行きました。ペテロは「私に命じてください」とイエス様に向かって言って、イエス様が「来なさい」と言われたのを聞いて、きっとイエス様の顔を見てですね、それを聞き、そして歩き始めたのです。船から出て一歩踏み出しました。そしてなんと、ペテロは水の上を歩いたのです。ある意味、「イエス様が水の上を歩いた」というのは、そこまで不思議じゃないように思うんですけど、ペテロが歩いた方が不思議だなんて思います。ペテロは私たちと全く同じ人間です。そのペテロが「水の上を歩いた」と聖書に書いてある。とても不思議なことです。

ペテロは何を見ていたのでしょうか。きっとイエス様を見ていたのです。「私に命じてください」と言ったペテロ。「来なさい」と命じてくださったイエス様を見て、船から足を踏み出したのです。沈みませんでした。歩いていきました。進んでいきました。しかしそのあと、ペテロは何を見たでしょう。風が吹いてきました。強い風が吹いてきた。「ところが強風を見て怖くなり」と書いてあります。強風を見て怖くなり沈みかけた。イエス様から目を離さずにいる間は歩けたのです。でも、目を離すと沈み始めました。

ペテロは何を見ていたか。弟子たちは何を見ていたか。私たちは何を見るのでしょうか。「あなたは何を見ているのか。」旧約聖書で神様はしばしば呼びかけました。預言者たち、例えばエレミヤに、アモスに、エゼキエルに、「あなたは何を見ているのか」問いかけたのです。今日私たちも今何を見ているのか、神様に問われたならば、なんと答えようか、それぞれ考えてみていただきたいと思うのです。神様に答えてみていただきたいと思います。「今私はこういうものを見ています」。見ているものに何か意味があるのかもしれない。

旧約聖書の預言者たちに、神様は何かを見せ、ある時はそれは果物だったり、植物だったり、仕事をしている人の姿だったり、イチジクだったり、食べ物が入ったカゴだったり、陶器師が仕事をしている様子だったり、そういうものを見せました。そして、見ているものを通して、神様は教え語りかけようとしたのです。

今私たちに問われたら、何と答えましょう。「あなたは何を見ているのか」と言われたら、何が見えるでしょうか？例えばこういう風に答えるかもしれません。「神様。今私たちは世界が揺れるのを見ています」「同じ問題で悩んでいるのを見ています」「にもかかわらず協力できていません」「人と人が分断されているのを見ています」「人種のことや、経済格差のことや、いろいろな分断・断絶が起きているのを、そういう世界を見ています」そう答えるかもしれません。あるいは「人はやはり、人と一緒にいるように創られて

いるのだなということを見ている」「人に会えず寂しそうにしている人間の姿が見えます」「本来、神のかたちである人間が悩み苦しみ、寂しさの中にいるのが見えます」と答えるかもしれません。

私たちは何を見ているのでしょうか。私たちは周りで起こっているできごとをよく見るべきです。時を見分けるべきです。よく見て判断すべきです。そして考えて行動すべきです。見なければならぬものがあります。世界を見て、人間を見て、そして過去と現在と未来を見ます。しかし、世を見て、世界と人間を見て、イエス様から目を離してはいけません。周りで何が起こっているか、世界がどうなっているか、人間がどんな様子か見ながら、イエス様から目を離してはいけません。両方見なければいけません。

ヘブル人への手紙 12 章 2 節に「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい」という言葉があります。私たちはイエス様から目を離さないで、イエス様の御顔を見続けて、一步一步と歩いて行きます。私たちは風の音を聞くでしょう。揺れる波を感じるでしょう。揺れる世界の水面を視野に入れつつ、でもイエス様の顔から目を離さないで進まなければなりません。「来なさい」と呼んでくださるイエス様から目を離さない。そう促されます。目を離したら、ペテロのように沈み始めます。風や波を見たら、風・波を注視してそれだけを見るようになったら沈みます。怖くなって危ないと思って、イエス様を忘れたら、イエス様を見ることを忘れたら、沈み始めます。ですから、私たちは沈まないように気をつけましょう。怖くなる時に、波が来る時に、イエス様を忘れないようにしましょう。

VI. つかんでくださるイエス様

「忘れてはいけません」と言いました。でも、「沈んだらイエス様が手を伸ばして助けてくれる」、それを信じましょう。「助けてください」という 30 節の言葉は直訳すれば「救ってください」という言葉です。ペテロが思わず叫んだ「助けてください」「救ってください」。私たちも言いましょ。ペテロはどれだけ歩いたか分かりませんが、結構進んでいたのかなと思いますけど、イエス様がすぐに手を伸ばしてペテロをつかんでくれた。もう手を伸ばせば届くぐらいまで行っていたのかもしれない。

私たちも目を離してしまうことがあるかもしれません。沈みかけることがあるかもしれません。こわくなってしまふことはあるでしょう。私たちも「失敗してはいけません」ということではないのです。「少しでも目を離したらもう終わりだ」ということではないのです。「沈みそうになったからおしまい」ということではありません。そうになったら、そのときイエス様が助けてくださいます。つかんでくださる。イエス様が手を伸ばしてつかんでくださる。そのことを思い出しましょう。

イエス様は眠ったままではありませんでした。そのあと、起き上がって風を叱りました。そうすると凧になりました。今日のマタイ 14 章、湖の上でこいでもこいでも進もうとしても進めない、向かい風で進めない、悩みに悩んでいる進めない弟子たちの姿は、2020 年の私たちに似ているように思います。

「2020 年度はこういうことをがんばっていきましょう」「進めていきましょう」と思っていたことで、できなかったことがいろいろあります。でもイエス様は、近づいて沈みそうになる時には、つかんで助けてくださいます。そして「まだ信仰がないのか」「なぜ疑うのか」「信仰の薄い者よ。信じよ。」と促してくださいます。「わたしに信頼しなさい」とイエス様はいつも私たちに促されます。落ちそうになる時がもしあるならば、つかんでくださるイエス様に信頼しましょう。「イエス様。私をつかまえてください。私たち

を支えてください。助けてください。」願えば良いのです。願う間もなく腕をつかまれているということもあるでしょう。

VII.世界がどんなに揺れても

湖の上で、波に揺れている弟子たちの姿、聖書の中に「揺り動かされる」という言葉があったことを思い出して、検索してみました。今、パソコンでもスマホでも、例えば、漢字でも、日本語でも、「揺れる」という漢字を入れれば、あるいは「揺り動かす」でもいいんですけど、検索するとその言葉が出てきます。

「揺れる」といういろんなところに出てくるんだな—ってこと、改めてわかりました。その中の二つの言葉があります。一つはヘブル人への手紙 12 章 26 節で、こういう言葉です。「あのときは御声が地を揺り動かしましたが、今は、こう約束しておられます。『もう一度、わたしは、地だけではなく天も揺り動かす』」。神様がもう一度、地を揺り動かす、天をも揺り動かす時があると新約聖書は語っているのです。これは旧約聖書のハガイ書のからの引用です。旧約聖書の終わりの方にハガイ書がありますが、ハガイ書 2 章 6 節と 7 節。「間もなく、もう一度、わたしは天と地、海と陸を揺り動かす」。そして、7 節「わたしはすべての国々を揺り動かす」。

2001 年、人と人との争い・憎しみ合い・攻撃・都市が破壊される…それを目の当たりにテレビで同時に見ました。こうやって世界は終わるのかもしれない。それまでは世界が終わっていったことは、私はイメージできてなかったように思います。でも世の終わりが突然イメージできるようになってしまった、それが 2001 年の 9 月 11 日のことでした。「こうやって世界が終わるのかもしれない」。

2011 年。9 年前になります。自然災害、地震、そして津波。多くの命が失われました。それと、人間が作り出した安全なはずのエネルギー工場が、どれだけコントロールできないかが突然見え始めました。

2020 年、新型コロナという未知の感染症。世界の一部ではなくて、全部が巻き込まれて同じ問題に直面しています。自然災害は、地震が起こった、津波が起こったその国、あるいはその地域でそれが問題になります。台風とかもそうですね。竜巻、サイクロンなどは局地的に起こる。戦争であれば、その国とこの国、関わる国の問題になる。感染症も、SARS とか MARS とかは、中国とか台湾とかアジアのいくつかの国の問題であって、私たちにとっても、また世界の多くの国にとっても、あまり問題ではなかった。

でも今、新型コロナは、いつ以来でしょうか？ 全人類が一つのウイルスによって、いや一つの問題に一緒に直面したのは。全世界の全人類が、同じ一つの問題にぶつかって、それに直面する。それはいつ以来なんだろうかと思いました。もしかしたらそれは初めてなのかもしれないとも思います。それほどのことかもしれません。そういう中でいろんなことが見えてきて、それぞれの国の国民性とか、政治の在り方とか、リーダーシップとか、いろいろと見えてきてしまった 2020 年でした。

「世界の終わりが近づいているのであろうか。あるいはこの時代、この世代、今の時代の終わりが近づいているのか。終わりが始まりつつあるのではないか」と思われるこの 10 年 20 年です。“世界は揺り動かされる”～ 聖書によってそのことは知っていました。しかし一体どのように世界全体が揺り動かされるのか。聖書には「わたしはすべての国々を揺り動かす」と神様は言われていますけれども、世界全体が揺り動かされるっていうのは、いったいどのようになるのかっていうのは、見えていなかったように思います。

今年それが見え始めた。人間が人間である、一人一人が人格をもち、他の人格と向き合っていて一緒にいる、そういう時間がなければ、人間として生きた感じがしない。そんなことを感じながら、緊急的に、人と人が付き合うのを停止した 2020 年でした。まだ再開できないことがいろいろあるでしょう。一部再開しようか…。“？”がつきます。また停止するのか…。“？”がつきます。そのようにまだ揺れ動きます。揺れはおさまりません。今はクリスマスはどうやって過ごそうか？ヨーロッパの国々で、家庭で、世界中のキリスト教会で、クリスマスはどうやって過ごすか、悩みながら困って考え込んでいる 2020 年の 11 月です。

世界が揺り動かされるとするならば、その時どうしたらよいのでしょうか。

一つは、イエス様が揺れる船と一緒にいることを思い出しましょう。「インマヌエル」という言葉があります。マタイ 1 章に出ます。「神、われらと共にいます」という意味です。今年の降誕祭の招待状、クリスマスカードに載せるみことばを、このみことばにしました。「インマヌエル」～「神が私たちとともにおられる」。揺れる船でも、眠っているようでも、同じ船に、イエス様が一緒におられます。イエス様は、高いところで、安全なところで、遠いところから、人間が悩むのをただ上から見ている神ではありませんでした。イエス様は降りてきた神です。近くに降りて来てくださった方です。降誕祭～降りて生まれる降誕祭が近づきます。

この私たちの揺れの中に、この不安の中に、この不確かさの中に、イエス様を迎えましょう。「主イエスよ、おいでください。この家に、この心に、この世界に、ここに、この群れに。」そう言える今日にしましょう。神が世界を揺り動かされるのかもしれない。その世界の中で、私たちはこの時代を生きてゆくのです。揺れる世界の中で、どう生きたらよいでしょう。どんな主の言葉を聞くでしょうか。この 7 ヶ月 8 ヶ月に、みなさん、日々の生活の中で開いて読んだ聖書の言葉に、どんな言葉があったでしょう。思い起こしてみ、もし書き留めているならば、これからも書き留めていただいて、ノートを読み返してみましよう。また毎週の礼拝の中で朗読され、語られた聖書の言葉があります。それも振り返ってみましよう。そして来週、再来週の聖書講演会で、どんなことが語られるのか期待して臨みましよう。一つは、2 週あります聖書講演会に、友や家族を誘ってみましよう。そしてもう一つ、どんなことをこの数ヶ月、主は語られたか思い起こしてみましよう。

湖の上で進めない弟子たちに、イエス様は言われました。「しっかりしなさい。わたしだ。恐れるな」。「しっかりしなさい」というのは「安心しなさい」ということです。また聖書の別の箇所では、同じ言葉が「勇気を出しなさい」とも訳されています。例えばヨハネの 16 章の最後です。イエスは、「しっかりしなさい、安心して勇気を出しなさい。わたしだ。ここにわたしがいる、怖がらなくても良い」と言われます。世界がどんなに揺れても、イエス様のそばにいましよう。「わたしを信頼せよ」と促されています。今ここにいる私たち、自分の存在を確かめて、不確かな私たちを確かなお方がつかんでくださるということを、思い起こすのです。神様は変わりません。神様は生きて働いておられます。神様は愛です。神様は見捨てません。不完全な人間を捨てることはなさいません。「わたしがいる。怖がるな。信頼せよ。」と語りかけ、慰め、励まし、促して、背中を押してくださいます。「恐れずに行け」と。「この揺れる世界、揺り動かされる時代、恐れずに、変わらないわたしに信頼して、ともに進みなさい」と。

黙祷をもって終わらましよう。

アーメン